

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	木の大学 .com (eラーニング)を含むオーダーメイド「高度専門士課程(4年制学科)」の開発		
法人名	学校法人 創造社学園		
学校名	専門学校 飛騨国際工芸学園		
代表者	理事長 明上友幸	担当者 連絡先	松村眞吾 06-6452-5541
<p>1. 事業の概要</p> <p>(事業主題・ねらい) 既設の専門課程(2カ年)を4年制学科・高度専門士課程の基礎部に昭和58年に国土庁を中心に纏められた“高山地域・学園都市・地区基本計画(木の大学をめざして)”をサイバー・キャンパスとして再構築、※ hidakagu.com 事業で開発した家具工場のデュアル修習を軸に、※ 地域人材育成協議会講座の学外履修、並びに「木の大学 .com」をeラーニングとして組込んだ2カ年のオーダーメイド型教科課程の開発に取り組みました。 (※)平成16/17年度 文部科学省委託研究事業</p> <p>(実施内容) 商品開発のクライテリアをパラダイムシフト“ものづくりからことづくりに変換”できる人材育成を目的に、家具づくりの背景を構築する教科課程と主要科目のシラバス開発とeラーニング、双方向の意見交換が可能なコミュニティを備えたeキャンパス「木の大学 .com」の構築とそれらを形成する運営システムとなる以下の開発を行った。</p> <p>1. 教育プログラム講座開発 教科課程の内容は「木」を軸にして、育てるところから最終製品に至るまでの一貫教育を目指し以下の森林系、芸術系、工学系(3系統、10分野、24講座)の教育プログラムの開発を行った。</p> <p>(1)「木の大学 .com」教科体系とその体系に基づく24講座の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「森林系」に資源・生態系・環境・材料の4分野計 8講座 ②「工学系」では機械工具・構造・応用の3分野 計 7講座 ③「芸術系」には文化人類・生活・造形の3分野 計 9講座 <p>(2)「木の大学 .com」で初期開発する24講座(10分野)の内、分野を代表する10講座を実際のセミナー形式によるものと双方向型のeラーニングによる講座の2種に分けて計20のプログラム開発を行った。</p> <p>■ セミナー形式(10講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「森林系」に資源・生態系・環境・材料の4分野 各分野1講座 計4講座 ②「工学系」では機械工具・構造・応用の3分野 各分野1講座 計3講座 ③「芸術系」には文化人類・生活・造形の3分野 各分野1講座 計3講座 <p>■ eラーニング形式(10講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「森林系」に資源・生態系・環境・材料の4分野 各分野1講座 計4講座 ②「工学系」では機械工具・構造・応用の3分野 各分野1講座 計3講座 ③「芸術系」には文化人類・生活・造形の3分野 各分野1講座 計3講座 			

2. 木の大学.COM (eキャンパス) のWEB基幹システムの開発

「木」を軸とした多様な知識や知恵を多方面から集積させ、特色のある知恵を発信する双方向のコミュニティとしてのeキャンパス「木の大学.com」WEB基幹システムの開発を行った。
このサイトを介してインターネットで相互に参加、利用することができる公共的なプログラム開発と効果的な学修を可能とする機能実装 (eキャンパス) を踏まえ構築。

3. 木の大学.com運営の事業枠組みの開発

Eキャンパスを形成する履修システムや受講生管理、授業運営システムの事業枠組み並びに「木の大学.COM」をコアに高度専門士課程 (4年制学科) 開設に向けて既存の生活工芸学科・家具専攻 (2年制) の教科課程再編成、※hidakagu.com 事業で開発した飛騨国際工芸学園独自の応用研究講座と※地域人材育成協議会による学外講座、家具工房でのデュアル実習のフィッティング開発を一体的に行った。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

- 1) 既設の専門課程 (2カ年) を4年制学科・高度専門士課程の基礎部として教育課程のクライテリアを“ものづくりからことづくりに変換”できる人材育成を目的に、家具づくりの背景を構成する教科課程「教科構成 (講座設計要求ガイドライン)」とそれに基づく主要科目「森林系、芸術系、工学系 (3系統、10分野)」の主要シラバス24講座の開発ができたこと。
- 2) 双方向の意見交換が可能なコミュニティを備えたeキャンパス「木の大学.com」のWEBサイトの初期構築ができたこと。

◆「木の大学.com」WEBサイトURL: www.kinodaigaku.com

- 3) 上記、開発を含め「木の大学.COM」をコアに高度専門士課程 (4年制学科) 開設に向けて既存の生活工芸学科・家具専攻 (2年制) の教科課程再編成、※hidakagu.com事業で開発した飛騨国際工芸学園独自の応用研究講座と※地域人材育成協議会による学外講座、家具工房でのデュアル実習をフィッティングし、2カ年のオーダーメイド型教科課程と高度専門士課程 (4カ年) の申請へ向けての基礎部が完成したこと。

(※) 平成16/17年度 文部科学省委託研究事業

②事業により得られた成果

- 1) 高度専門士課程 (4年制学科) の育む人材像「商品開発のクライテリアをパラダイムシフト “ものづくりからことづくりに変換”できる人材の育成」に必要な要素“ものづくりの技術”“起業と経営能力”“ブランド構築力”“高度な木の文化と技術に裏打ちされた具現力”を育む4年間の教科体系が編成ができたこと。

③今後の活用

- 1) 「木の大学.com」で開発した3系統10分野24講座を“地域人材育成協議会”が行なうセミナーの主要な柱として提供します。
- 2) eキャンパスが構築したコミュニティを専門学校飛騨国際工芸学園学生、家具木工業界関係者など“木と家具”の関係者が双方向で意見の交換ができる場として今後も引き続き維持し、地場産業発展に貢献します。
- 3) 高度専門士課程 (設置認可申請予定) の基幹システムとして用います。

④次年度以降における課題・展開

- 1) 「木の大学.com」で構想した3系統10分野24講座の内、未実証の14講座を“地域人材育成協議会”と協力して継続的な開発に取り組みます。
- 2) eキャンパスの主要コンテンツである木や森林など自然環境、家具・木工の講座とムービーコンテンツの提供を企業その他へ働きかけを行ない、「木の大学.com」の機能を強化します。
- 3) 高度専門士課程の設置認可申請を別様のロードマップにより行います。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

公の白書、統計・調査資料、文献その他により開発に必要なデータやニーズを把握できますので本事業において各種調査は行っていません。

②カリキュラムの開発

(1)テーマ

商品開発のクライテリアをパラダイムシフト“ものづくりからことづくりに 変換”できる人材育成

(2)開発経緯

木を軸に「木を育てる」～「最終製品」に至る一貫した教育プログラムを目指し、育む人材像「高度な木の文化と技術に裏打ちされた具現者の養成」に必要とする森林系、工学系、芸術系の素要素、開発講座の視点を導き出してガイドラインを策定。そのガイドラインに基づき森林系、芸術系、工学系(3系統、10分野)24講座の教育プログラムの開発を行った。

(3)対象

本校、2年制課程卒業対象を含む、木に関連する従事者、又は、木に関連する知識が必要とする者、知る必要がある者

(4)手法・講座時間数

①講座設計のポイント

講座内容：これだけは押さえておきたい重要な点(キーワード)を明確にした設定。

レベル設定：学業(大卒、専門卒)的ではなく、一般の仕事を携わっている方を対象とした設定。

指導視点：この講座の受講者に対して「気づき」「発見」「応用展開」が可能な視点をもたせる。

開発視点：受講者の持っている固有能力に新たな視点を与えることによるプラスαを想定。

『固有能力』+『木の大学講座』=『高度な木の文化技術に裏打ちされた具現者』

講座基本設定：

■セミナー 形式：1講座18時間(3時間1テーマ×6テーマ)の設定

■eラーニング形式：1講座：18時間(3時間×6テーマ)の設定

1テーマ：※1WEB上の学習90分+※2双方向の演習90分=3時間程度

※1)WEB上の学習=「WEB動画(教材ダウンロードも含む)」「木の辞典」の連動で学習。

※2)双方向の演習=自宅製作+「コミュニティ・ブログ」でのテーマディスカッション。

(5)開発内容

■森林系(8講座)、工学系(7講座)、芸術系(9講座)=計24講座の以下の教育プログラム

系・分野	講座テーマ・執筆
① 森林系 資源分野	「森のたくみ」 佃 正壽 「森のめぐみ」 新井正徳
② 生態系分野	「森のいのち」 大森清孝 「森といきる」 大森清孝
③ 環境分野	「森のはたらき」 水野雅夫 「森のすがた」 小山修三
④ 材料分野	「森のたまもの」 新井正徳 「うるし」 高橋光男
⑤ 工学系 機械分野	「木のキカイ」 中田 好
⑥ 構造分野	「木のちから」 金山公三 「木組みのちから」 八野 明
⑦ 応用分野	「木の流通」 山田貴敏 「木の再生」 山田貴敏 「木の土木」 庄司 修 「森の土木」 水野雅夫
⑧ 芸術系 文化分野	「木匠の系譜」 田中 彰 「ネオ匠ろん」 河本善光 「品・格・論」 井上斌策
⑨ 生活分野	「木のくらし」 井上斌策 「間と空間デザイン」 吉島忠男 「ロハス研究」 井上斌策
⑩ 造形分野	「木とであう」 大西雄一郎 「木とつながる」 遠藤利克 「木にかえる」 井上斌策

③実証講座

木の大学.COMで初期開発する24講座(10分野)の内、分野を代表する10講座を双方向型のeラーニングによる講座と実際のセミナー形式による講座の2種に分けて計20の実証講座を行った。実証講座では主にeラーニングに必要なシラバス設計と運用のノウハウを実際との比較検証を経た上で開発のクライテリアを形成、2次開発(講座拡充)と他の専門学校の利用に供することを目的にフォーマット化した標準仕様を開発した。

■実証講座(セミナー形式)と実証講座用プログラム(執筆)

・講座テーマ(講座時間数、講師名、受講者数)：10講座

(森林系)	①資源分野	「森のたくみ」(18時間)	佃 正壽	11名
	②生態系分野	「森のいのち」(18時間)	大森清孝	15名
	③環境分野	「森のすがた」(18時間)	小山修三	43名
	④材料分野	「うるし」(18時間)	高橋光男	15名
(工学系)	⑤機械分野	「木のきかい」(18時間)	中田 公	41名
	⑥構造分野	「木組みのちから」(18時間)	八野 明	15名
	⑦応用分野	「木の流通」(18時間)	山田貴敏	45名
(芸術系)	⑧文化分野	「ネオ匠ろん」(18時間)	河本善光	18名
	⑨生活分野	「ロハス研究」(18時間)	井上斌策	45名
	⑩造形分野	「木にかえる」(18時間)	河本善光	12名

・期 間：平成18年12月11日(月)～平成19年2月28日(水)

・場 所：専門学校 飛騨国際工芸学園 セミナー教室

・受講者の属性：専門学校 飛騨国際工芸学園 専門課程1、2年

・受講者の反応：

(アンケートによる受講者が特に気づいた点)

- 2年課程の授業と全く違う切り口と視点(今までの概念にとらわれない視点と客観性)
- 木工製作に関連したことだけではなく、その背景、文化、環境を知る必要がある点
- 木に関することを知るということは、即ち人間論(生き方、暮らし)を見つめなおすこと

■「eラーニング講座」プログラム

・講座テーマ(講座時間数、プログラム執筆・編集者)：10講座

① 森林系	資源分野	「森のたくみ」	渡壁 光温
② 森林系	生態系分野	「森のいのち」	渡壁 光温
③ 森林系	環境分野	「森のすがた」	渡壁 光温
④ 森林系	材料分野	「うるし」	渡壁 光温
⑤ 工学系	機械分野	「木のきかい」	中前 寛文
⑥ 工学系	構造分野	「木組みのちから」	中前 寛文
⑦ 工学系	応用分野	「木のかたち」	庄司 修・中前 寛文
⑧ 芸術系	文化分野	「木匠の系譜」	田中 彰・中前 寛文
⑨ 芸術系	生活分野	「間と空間のデザイン」	吉島 忠男・中前 寛文
⑩ 芸術系	造形分野	「木がつながる」	中前 寛文

・期 間：平成19年1月 ～ 平成19年2月

・受講者の属性：専門学校 飛騨国際工芸学園 専門課程1、2年

・受講者数：10名

・場 所：専門学校 飛騨国際工芸学園

・受講者の反応：

(受講者の声)

- 色々な情報を知る点では良いが、レポート等の提出(メール)をするより、講座テーマブログ、掲示板形式で複数の方の色々な意見やアドバイス、講評などが出来る方が良い。
- 通常のインターネットでの学習では全く異なった視点の内容に対してはキーワード自体が思いつかないが、体系化されたこの学習では、コンテンツが増えれば、様々な視点の学習になると思う。

④その他

当事業は、学校教育の中に地域・外部のステークホルダーや本校既存システム(再編・フィッティング)を取り入れた事業枠組みを構築し、その取組みの中から生み出される新たな付加価値によって教育開発のクライテリアを発見し、教育レベルの向上を目指して実施されています。

又、その成果を学校内部だけではなく地域・外部への提供 (WEB) を行い、地域全体への波及効果を出してまた学校へフィードバックすることによって持続発展的に行える事業として取組んでいます。